

プログラムの概要

- 川の周辺で生活している野鳥を観察する。鳥に親しむことで、自然環境への興味を深める。

関連する学習	・3年生—理科「身近な自然の観察」 ・3・4年生—道徳「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」 ・4年生—理科「季節と生物」 ・6年生—理科「生物と環境」
所要時間	45分×2
活動場所	川の周辺(河川敷、堤防の上、砂州など)

Keyword

キーワード

- 野鳥
- 生き物観察
- 食物連鎖
- 環境



活動のねらい

- 川の周辺に住む野鳥を観察し、種類や特徴を学ぶ
- 川の周辺の野鳥と、川の環境とのかかわりを調べる

川の周りには多くの鳥が生活している。実際に野鳥を観察し、地元の川の周りには、どのような種類の鳥がいるのかを確認する。また、個々の鳥の名前や鳴き声を学ぶ。

どのような鳥が生息しているのかを体感的に学ぶことで、生き物への興味が深まり、さらには、川や環境に対する理解につなげる。

準備するもの

○活動に必要な道具

- ・双眼鏡(8～10倍程度のもの)
- ・図鑑
- ・ワークシート
(参考資料参照)
- ・筆記用具



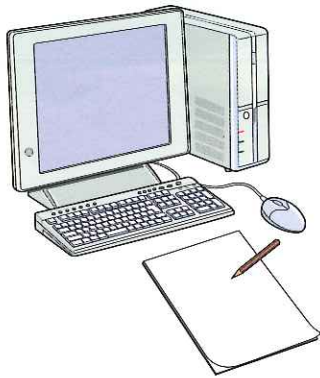
○野外で活動するための服装

- ・動きやすい服や靴(体操服や運動靴など)
- ・帽子
- ・タオル

○安全に活動するための道具

- ・救急箱
- ・飲料水

活動準備



【写真提供／東京都多摩市立連光寺小学校】

① 情報収集

- ・川の周辺に生息する鳥類に関することのほか、体験活動を安全に実践するための基本的な準備や注意点、川や水辺に内在するさまざまな危険などを、書籍やインターネットなどを活用して学んでおく。
- ・活動を実施する川についての情報も同様に収集する。
- ・市民団体などから鳥類の専門家を探し、あらかじめ体験活動に関するヒアリングを行う。
- ・場合によっては、その専門家に講師を依頼してもよい。

② 道具や装備の準備

- ・活動に必要な道具（双眼鏡など）を準備する。
- ・道具のほか、炎天下の活動では熱中症や脱水症状を引き起こす可能性があるため、日陰の場所を確保するとともに、飲料水の準備もしておく。

③ 活動場所の選定

- ・川の周辺を見渡せる見通しのよい場所を中心に、事前に観察場所の候補を決める。
- ・野鳥の観察は、朝方が適しており、早い時間に学校から移動できることが重要である。
- ・活動場所は必ず事前に下見を行い、下見の結果に基づいて、場合によっては、安全を確保するためのスタッフ配置計画を行う。

④ その他

- ・活動場所が遠い場合には、アクセス方法を確認するとともに移動手段を確保する。
- ・活動当日の天気や河川情報の収集を行い、天気が悪い場合には延期や中止の判断をする。活動中も天候の変化や川の水位等の情報収集を、常に心がけることが重要である。

活動内容

導入

- ・知っている鳥の名前を聞いたり、どのような鳴き方をするかなどを問いかけ、鳥への興味を深める。

活動Ⅰ 野鳥の観察



- ・双眼鏡で太陽を見ないように注意！

- ・川の周辺を見渡せる見通しのよい場所（砂州内、堤防の上、橋の上など）に移動する。
- ・観察を始める前に、鳥の大きさ、形、飛び方、歩き方、鳴き声、何をしているかなどに注目して見るよう指示をしておく。
- ・鳥を探す際は、はじめは目視で探し、確認したら双眼鏡などを用いる。
- ・鳥探しをしていると、子どもたちは夢中になる。しばらく観察をさせると、どの種類の鳥が、どのようなところに出現しやすいのかがわかってくる。
- ・観察した鳥に関しては、適宜ワークシートに、特徴やしぐさなどを記入させる。
- ・時間に余裕があれば、各自好きな鳥をスケッチさせる。
- ・観察活動は、20～30分程度を目安に行う。



川にいる鳥(ダイサギ)

- ・観察が終わったら、「川の上ではどんな鳥を見たか」「樹林の中ではどんな鳥を見たか」など、場所ごとにどのような鳥を見たかを問いかける。
- ・確認した鳥が、それぞれどのような活動をしていたかを問いかける。水の上やブロックの上で休息する様子や、草地や川の上空でえさを探している様子などが確認されているはずである。
- ・年間を通じて、川が鳥のえさを探す場所として、また休息地として利用されていることや、春から夏には川の周りの樹林や草地で繁殖する鳥がいること、冬にはカモやハクチョウが越冬する場になっていることなどを説明する。
- ・また、えさの取り方によって、鳥の形にも違いがあることを説明する。例えばカモなどのように、草やプランクトンなどを食べる鳥のくちばしは太くて長く、シギやチドリなどのように、ゴカイやカニなどの甲殻類や貝類を食べる鳥のくちばしは、とがっている。

まとめ

川の近くにはさまざまな鳥が生息しており、川やその周辺の環境は、鳥の生活空間として非常に重要なものであることを説明する。川の周辺に生息する虫や魚は、鳥たちの重要なえさになっていることも伝え、生態系や食物連鎖についても話をする。

発展

野鳥観察では、観察する時期によって確認できる鳥の種類が異なる。年間を通じて、どのような鳥が川の近くに生息しているのかを確認することもできる。

鳥の区分	区分の説明	鳥の種類
留鳥 (りゅうちょう)	一年中日本にいる鳥	スズメ、カワウ、ダイサギ、カルガモ、トビなど
夏鳥 (なつどり)	春に越冬地から日本に渡来して繁殖する鳥	ハチクマ、チュウサギ、ツバメ、コムクドリ、ツツドリなど
冬鳥 (ふゆどり)	秋に繁殖地から日本に渡来して越冬する鳥	コガモ、ハマシギ、ツグミ、ヨシガモなど

学校や山など、川以外の鳥を観察し、場所によって鳥の種類や特徴が違ふことを学習する。また、虫や魚との関係（食物連鎖）について理解する。

参考情報

○野鳥に関する情報

- ・財団法人 日本野鳥の会 (<http://www.wbsj.org/>)

○川に生息する生物の情報

- ・河川水辺の国勢調査結果（国土交通省）(<http://www3.river.go.jp/>)

○川の水位や天気に関する情報

- ・川の防災情報（国土交通省）(<http://www.river.go.jp/>)

○川の指導者に関する相談先

- ・NPO 法人 川に学ぶ体験活動協議会（RAC）(<http://www.rac.gr.jp/>)

野鳥観察ワークシート		
年 組	名 前	
観察した場所		
観察した日	月 日 天候（ ）	

鳥の名前は？		鳥の絵をかこう
見つけた場所		
体のとくちょう		
見つけた数		
飛び方		
歩き方		
しぐさ		

鳥の名前は？		鳥の絵をかこう
見つけた場所		
体のとくちょう		
見つけた数		
飛び方		
歩き方		
しぐさ		

気がついたこと